



10月27日から11月9日は読書週間です 2023年の読書週間標語は「私のペースでしぼりは進む」

本の中には、多様で思いもよらない世界が広がっています。あなたのペースで思いのままに本の世界を進んでみませんか。



本を借りる

図書館には、絵本や小説もあれば、料理の本、化学の本、外国語の本、雑誌などさまざまな本があります。実際に手に取ってみて、気になる本や読みたい本があればお借りいただけます。

図書館にある本は予約ができます。また、

図書館にない本はリクエストができません。購入したり、県内などのほかの図書館と協力して取り寄せたりして提供します。ぜひご利用ください。



【予約方法】

- 館内の検索用パソコン
- 館内のカウンター
- ホームページ
- ホームページ

【リクエスト方法】

- 館内のカウンター
- ホームページ

本を探す・何かを調べる

図書館には、みなさんが疑問に思ったこと、知りたいことを調べるお手伝いをする「レファレンスサービス」があります。

滋賀や日野に関する本を集めた郷土資料のコーナーや、新聞の記事が検索できるデータベース、農業関係の情報を調べるデータベース、国立国会図書館にある入手困難な資料をパソコンを通じて閲覧するサービスなどを活用して、皆さんがさまざまな資料に出会うお手伝いをしたり、いろいろな質問にお答えしたりしています。

本探しゃ調べものなどお気軽にお問い合わせください



本との出会いを

図書館では、「おはなし会」や「おひびき」などのおはなし会などいろいろな行事をしています。図書館から出かけて、つどいのひろば『ほけっと』など

でおはなし会をしたり、幼稚園・保育所などで移動図書館を実施しています。

また、小学校で図書館の使い方の説明会をしたり、町内のすべての小・中学校への学校司書の派遣なども行っています。館内では、月ごとにいろいろなテーマの本を集めた展示や、新しく入った本・新聞書評に掲載された本のコーナーを作るなど、みなさんが本と出会うきっかけづくりをしています。

たくさんのお本と出会い、お気に入りのお本を見つけてください。

図書館と居場所

図書館は、

誰もが気軽に利用できる施設です。

特別な目的がなくても、

「ちよっとどこかで過ごすしたい」

「ゆっくり本を読んで楽



▲学びと交流の居場所

「しみたい」というときに過ごせる居場所です。本を仲立ちに学びあったり、話したり、誰かと自由に過ごせるほっとする場として図書館をご利用ください。

さまざまな取り組み

図書館ではほかに、主に0歳から3歳の乳幼児を対象とした託児サービス、毎月のえいが会、コンサート、講演会、哲学カフェ、地域の情報を発信するウィキペディアタウンなど、さまざまな取り組みやイベントを実施しています。

図書館の情報発信

図書館のホームページやとしよかんだより、広報ひの、日野めぐるなどで行事などの情報をお知らせしています。また、フェイスブックではお知らせのほかにも本の紹介や図書館の豆知識などを発信しています。ぜひご覧ください。



図書館
ホームページ



図書館
フェイスブック

◆問い合わせ先

日野町立図書館

☎0748-5311644



みんなのとしょかん



本の紹介

『図書館にまいこんだ こどもの大質問』

こどもの大質問編集部／編
青春出版社

図書館には、日々いろんな質問が寄せられます。この本は、子どもからの質問に、図書館がどのように調べて答えたかの事例を集めた本です。「泥だんごに適した土は？」など、子どもならではの質問が楽しい一冊です。



10月

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

■…休館日 ○…えいが会 ◇…託児サービス
■…おはなし会 □…おひざでだっこのおはなし会

11月

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

日野町立図書館

☎0748-53-1644 FAX 0748-53-3068

図書館の本は、お近くの公民館でも返却していただけます

行事予定

- 『おはなし会』 10月7日(土)、14日(土)、28日(土)
10:30～(15分程度)
- 『おひざでだっこのおはなし会』10月21日(土)11:15～(20分程度)
3歳くらいまでの親子を対象に絵本や手遊び、わらべうたなどをしています。
- 『託児サービス』 10月11日(水)、18日(水)
10:00～12:00 対象:0歳から3歳
- 『えいが会』 10月15日(日)14:00～
『さよならくちびる』2019年/日本(116分)



図書館からのお知らせ

○視聴覚資料の返却について

図書館でCD、DVD、ビデオを借りていただくとき、緑色の専用貸出袋に入れて貸し出ししています。この袋はCD等の破損を防ぐためのものですので、必ず袋に入れてご返却ください。また、ご返却の前には中身が入っているかどうかの確認をお願いします。

青雲之志

～町長コラム～

日野町長 堀江 和博

「人生七掛け論」で生きる

今年9月18日が敬老の日でしたが、いつもこの時期に疑問に思うことがあります。現役、バリバリで若々しい方が、戸籍上の年齢だけで、その対象者となることなのです。正直違和感を覚えざるを得ません。

わが国では65歳以上を高齢者としており、74歳までを前期高齢者、75歳以上を後期高齢者と定義しています。しかしながら、平均寿命が短かった昔の年齢の感覚と、人生百年と言われる現代の年齢の感覚は明らかに違います。

百歳でもなお現役医師であった日野原重明さんは、「人生七掛け論」を提唱されました。つまり「自分の年齢×7割ぐらいが、張り合いをもって人生を送るのにちょうどいい年齢だとい

うことです。60歳なら42歳、70歳なら49歳、80歳でも56歳です。80歳が56歳というのなら、まだ定年退職にすらなっていない。まだまだ働いてもらわないといけません。もっと地域に社会に貢献してもらわないといけません。お洒落をして人生を楽しまなければなりません。自分がやってみたいこと、新しいことにもチャレンジしなければなりません。

昭和10年生まれの若宮正子さんは、80歳でプログラミングを学ばれ、iPhone用スマホアプリを独学で開発されました。世界最高齢のプログラマーと呼ばれ、世界も大注目。国連でスピーチされるなど、88歳の今でも元気で活躍されています。

「とにかくバッテリーボックスに立って、バットを振ってみる。振ったら、当たるかもしれないじゃないですか」そう話す若宮さんのチャレンジを見ると、人は何歳からでも変われるのだというのに気付きます。日野原先生の「人生七掛け論」と若宮さんの「とにかくバットを振ること」と、とてもすてきな考え方だと思いませんか。